

学生時代に自分が納得できる英文法理論を見いだせなかったり、英文法を意識していなかった人。受験時代に身につけた英文法理論を新たな視点から見直し、独自の理論を構築し直した人。こういった読者を念頭において本書を書きました。

英語を話す、書く、読む、聞くための手段として英文法の知識が不可欠である。これは大人なら実は誰でもわかっていることです。いわゆる「学校文法」が英語習得の妨げになる、といった主張に一見説得力があるかのようにですが、「外国語に接するのに自分なりの文法理論を持たずして臨むというのは方法論として明確な誤りである」。これは普遍的な真理でしょう。

最近気になるのは、「コミュニケーション英語」という名の下、学校時代に文法理論をきちんと教わっていない人が増えていることです。さらに、教師の視点に立つと次のような問題点も見えてきます。5文型などの知識を普通に当たり前で教えることが自信を持って実行しづらいような雰囲気、環境、そして使用する教科書——これこそ重大な事態なのではないでしょうか。

英語を外国語としてどうやって身につけていくのか。まずこの方法論を明確にしないと、膨大な時間を英語学習に割かざるをえない中高生に与える悪影響も計りしれません。

本書は、筆者が長年提示してきた考え方をまとめ直し、新た

に書きおろしたものです。この仕事を、英語や英語教育に対する貴重なご意見、知的刺激を長い間私に与え続けてくださっている編集者の山内昭夫氏とできたことは大変幸運なことでした。

読者の皆様がこの本を手にしたことをきっかけに、自分の文法理論を作っていたいただければ筆者として大変うれしく思います。そのことは、決してむずかしいことでも時間がかかることでもないのですから。

なお、本書に収録された例文のネイティブスピーカーによる朗読や簡単なテスト、本書に基づく英語の勉強法をはじめ英語に関する情報は、インターネットのサイト「あすなろオンライン」(<http://www.asunaro-online.com/>) で提供していく所存です。

鬼塚幹彦

はしがき 3

項目リスト 6

序章 英語についての考え方	11
第1章 動詞の時制	27
第2章 冠詞	99
第3章 前置詞	145
第4章 5つ文型	165
第5章 文どうしの関係と“切る”姿勢	201
第6章 “that”と比較	215
最終章 「コミュニケーション英語」の流れの中で	225

あとがき 232

索引 234